

糸で切った粘土の切り口を生かして！

—— エッジのきいた（鋭い形）「愉快的仲間」 ——



表現内容の要素と発想の視点

- ・表現材料：テラコッタ粘土
／楽焼用粘土
- ・造形要素（色／形／材質）：
塊状不定形、鋭角的、無
機的な線や面、立体形
- ・表現技法：手びねり、糸切り、
線彫り、擬人化、ほか
- ・表現様式：半具象形
- ・表現対象／主題：愉快的人
物、仲間／粘土の鋭角的
な切り口を生かした立体
人物造形

写真1「愉快的仲間たち」[約
1150℃焼成／無釉・部分炭
化]（高さ約14～17cm）

造形発想と表現について

粘土の固まりは「切り糸」を使うとよく切れる。粘土は粘性が強いため、手やナイフなどでは容易に切れないのである。

「切り糸」は、たこ糸や釣り糸、針金やワイヤーなど、丈夫な糸状のものを使う。

手びねりで作った作品は、一般的に粘土を延ばしたり付け加えたりするなど、手のぬくもりを感じさせるような有機的で穏やかな表現になる。彫塑でいう、モデリングの効果である。

ところが、粘土を糸切りの技法で切ると鋭角的な鋭い線や面が現れる。手で握った形とは対照的に無機的な感じになる。カービングのひとつの効果である。

ここでは、粘土を糸切りした鋭角的、無機的な線や面、立体の形の面白さを楽しむ。

まず、粘土の塊から鋭角的な線や断面を意図的に捉え、不定形に切り取る。

偶然にできた鋭角的な線や断面の形を生かし、方向性を捉えて塊を固定する。それに単純な顔をつけていくと、たちまち人や不思議な生き物に変身する。粘土を握った形とはまるで違った雰囲気表現となる。

また、何体かつくって組み合わせても楽しい。形を組み合わせた表現の迫力であり、これもひとつの造形的な発想方法である。

塊状の粘土を焼成するので急熱、急冷に対応するテラコッタ粘土や楽焼用粘土の使用が適切である。

用具／材料

急熱、急冷対応粘土（約1kg）、粘土板、粘土べら／細工かん（各種）、切り糸（たこ糸や釣り糸、針金やワイヤーなど）、雑巾ほか

表現のプロセスと内容

●粘土の塊をつくる

- ・糸切りしてできる形や表現したい人、生き物を大まかにイメージしながら、1kgの粘土の塊をつくる。ここでは直方体にした。(写真2)

●切り糸で不定形の立体を切り取る

- ・「切り糸」はしっかり握って左右に強く引っ張りながら粘土を切り取る。(写真3)
《切り糸の張りが弱いと粘土の切り口に鋭角的な線や断面ができない。また、糸切りの途中で張りが弱くなりやすいので注意が必要である。》
- ・表現したい対象のイメージに合わせ、立体の大きさ、形状、個数を考えて切り取る。(写真4)
《1kgの粘土の範囲で、立体の大きさや個数は任意である。》
《複雑な切断面を表現するときは、ある程

度の大きさが必要になろう。(作例/写真1・12・15～18) また、シンプルな表現なので数をつくることができる。(作例/写真13・14・18・19・20)》

- ・糸切りによる粘土の切断面の工夫。
《切断面は「切り糸」を握る左右の手の動かし方などで異なってくる。さまざまな切断面の面白さを試していただきたい。》
《切り糸を波のように細かく動かして切り開いた状態。》(写真5)
《切り糸を左右互い違いに波のように動かして切り開いた状態。》(写真6)

●立体の方向性や顔をつける位置を決め、粘土の塊を固定する

- ・形を生かした方向や顔の位置を決めたら「切り糸」で底面となる部分を平らに切り取って立てる。
- ・表現したい対象のイメージに合わせ、さらに



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

不要と思える部分を切り取ることもできる。(写真7・8)

《不要な部分を切り取るだけでなく、表現に合わせてさまざまな試みができる。例えば、立体を2分割し、対の表現にする、など。》

●目や口、顔などを粘土べらや細工かんなで描く

- ・線彫りの技法で目や瞳、口など、できるだけシンプルにつける。
- ・表現したいイメージに合わせて目の位置や形、笑う、怒る、泣くなどの表情を工夫する。(写真9・10)

《最もシンプルな立体作例の顔の表現である。》(写真11)

●完成したら十分に乾燥させ、無釉で炭化焼成した

- ・完成した作品。(写真12)
《シンプルな作品を複数つくり、組み合わせた作例》(写真13)
《作品がシンプルで厚みがなく、目をくり抜いた作例》(写真14)
- ・大きな塊の作品を焼成するときは、ピンなどで刺して傷口が見えない程度に水蒸気の抜け道をつくっておく方法もある。比較的焼き割れが防げる。



写真7



写真8



写真9



写真10



写真11



写真12



写真13



写真14

表現のバラエティ



写真 15 完成作品
「歌舞伎」〔約 1150℃焼成／無釉・部分炭化〕
(高さ約 13cm)



写真 16 完成作品 「女御」
〔約 1150℃焼成／無釉・部分炭化〕
(高さ約 7cm)



写真 17 完成作品
「ビルズ兄弟」〔約 1150℃焼成／無釉・部分炭化〕
(高さ約 15～16cm)



写真 18 完成作品
「翁烏帽子」〔約 1150℃焼成／無釉・部分炭化〕 (高さ約 15cm)



写真 19 完成作品
「マテま手トリオ」
〔約 1150℃焼成／無釉・部分炭化〕 (高さ約 4～11cm)



写真 20 完成作品
「はぎれ君たち」
〔約 1150℃焼成／無釉・部分炭化〕
(高さ約 4～6cm)